

認知症カフェ 公共性必要

介護研究・研修
仙台センター 矢吹知修部長が講演 天童

認知症カフェ「Mカフェ」を毎月開催している天童市の特別養護老人ホーム明幸園で10日、東北福祉大専任講師で認知症介護研究・研修仙台センターの矢吹知之が、「公園のように誰もが私のカフェと思える公共性を持つことが大切」とア

ドバイスした。研修部長が「地域を変える認知症カフェ」と題して講演し、「公園のように誰もが私のカフェと思える公共性を持つことが大切」とア



認知症カフェ（アルツハ イマールカフェ）の生みの親であるベレ・ミーセン氏（オランダ）との共著を持つ

「地域を変える認知症カフェ」と題して講演する矢吹知之研修部長 天童市・明幸園

つ矢吹部長は、認知症の定義について、「線引きが難しく、最もリスクなのは加齢といわれる。つまり全員が当事者との考えが望ましい。何かができる、できないで判断することから脱却しないとイケない」とたたした。

その上で、認知症カフェを「単なる社交目的の集まりでなく、複合レベルの教育と支援の組み合わせられた構造」と捉え、「普段は語りづらいことを話す場所である。共に歩む生き方を学び、その苦しみをオープンにする場となることを目指している。それができる可能性は地域にある」と解説。これからの認知症カフェに求められる性質として、「当事者性」「公共性」「専門性」を内包する地域性と指摘した。

福祉関係者ら約130人がコーヒーマシンの香り漂う空間で聴講し、矢吹部長とのディスカッションも行った。（進藤和美）